令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立敷津浦小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区　　名	住之江区
学　校　名	大阪市立敷津浦小学校
学 校 長 名	藤原　義裕

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和８年４月に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1)　教科に関する調査

・国語

・算数

(2)　質問調査

・児童に対する調査

・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童

・大阪市立敷津浦小学校では、第６学年　69名

令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立敷津浦小学校の結果概要

令和８年度の調査結果において、国語の平均正答率は５９％で、全国平均の６０．９％や大阪市の５９％に近づくことができた。算数の平均正答率は５５％で、全国平均の５６．４％や大阪市の５６％を下回った。しかしながら、児童の粘り強さの指標となる平均無回答率が極めて低く、国語は２．３％（全国３．４％）、算数は０．７％（全国３．２％）であった。このデータから、児童は学習への高い意欲や最後まで諦めずに問題に挑む姿勢をもってはいるが、基礎的な学習内容の確実な定着には課題があることがわかった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】領域ごとの強みと課題がはっきりと表れた。「言葉の特徴や使い方に関する事項」が６６．２％、「情報の扱い方に関する事項」５４．４％、「読むこと」６７．６％と、全国平均を上回った。日常生活に結びやすい国語の力は身についていることがわかる。一方で、「話すこと・聞くこと」６０．３％、「書くこと」４０．４％と、全国平均を下回り、語彙力や自分の思いを表現することには課題がある。

【算数】全体として、知識のインプットや計算といった領域は、習熟できている成果を示している。一方で、「図形」５０．０％、「変化と関係」３４．３％は、大きく大阪市平均を下回っており、想像力や関係性を捉えることに対しては、課題がある。

質問調査より

「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問項目では、本校の肯定的な回答が、全国や大阪市平均を上回っている。また、悩みや不安を大人に「いつでも相談できる」と思っている児童が多い。加えて、学級の友だちと話し合う活動に対して肯定的な回答をする児童が９３％と多く、児童の自己有用感が育っていることや学校生活を前向きな気持ちで送っていることがわかった。

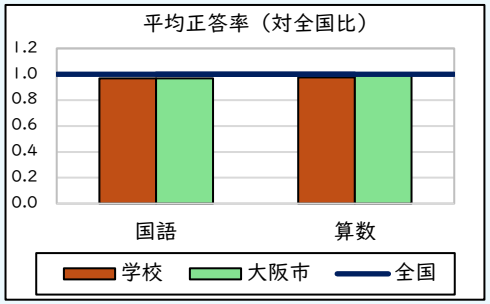
今後の取組（アクションプラン）

これまで取り組んできた算数教育をもとに、どの教科でも児童主体で、学び合いがある授業へ転換し、ICT活用や対話を重視して、さらなる研究推進を行っていく。引き続き、人権教育にも取り組み、一人ひとりが輝き、大切にされる教室、学校をめざしていく。教員においては、自分のよさを活かせる分野で活躍し、さまざまな課題に対して組織で対応していく。学校DX化や調整授業時数制度を活用しながら、業務を整理し、児童の確かな学力と寄り添いへ注力できるようにしていく。

令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要

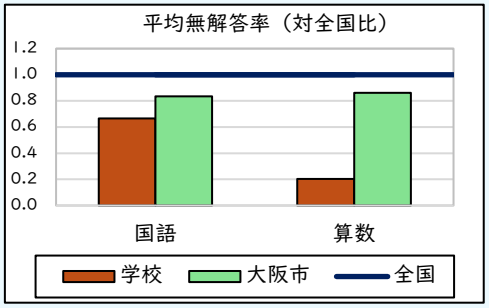
平均正答率（%）

	国語	算数
学校	59	55
大阪市	59	56
全国	60.9	56.4



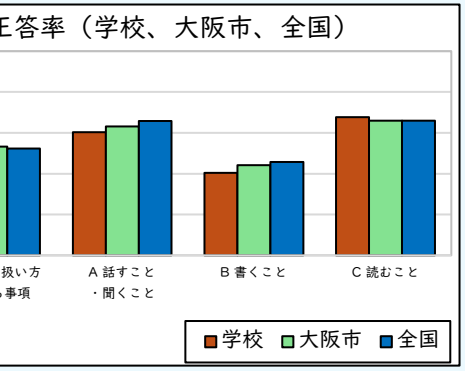
平均無解答率（%）

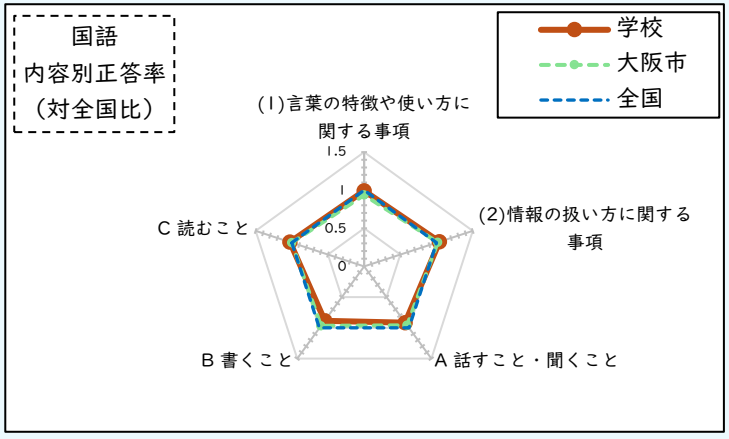
	国語	算数
学校	2.3	0.7
大阪市	2.8	2.8
全国	3.4	3.2



【国語】内容別正答率

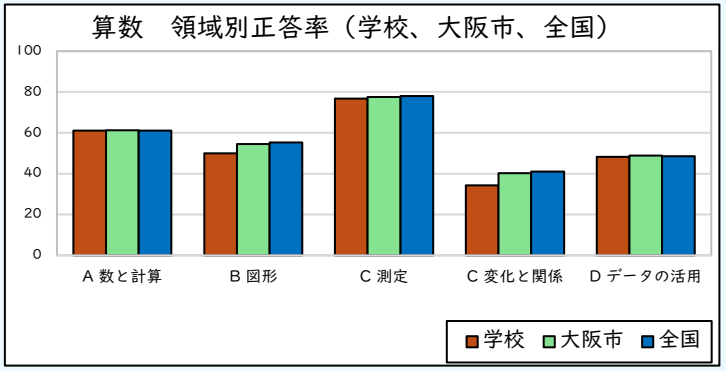
学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	66.2	62.5	66.8
(2)情報の扱い方に関する事項	2	54.4	53.2	52.3
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	－	－	－
A 話すこと・聞くこと	3	60.3	63.1	65.8
B 書くこと	2	40.4	44.2	45.7
C 読むこと	2	67.6	66.0	65.9

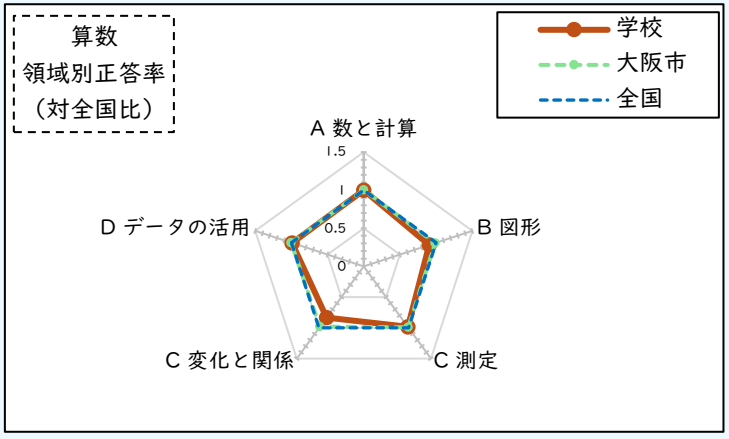




【算数】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	61.1	61.2	61.1
B 図形	4	50.0	54.5	55.3
C 測定	1	76.8	77.5	78.1
C 変化と関係	3	34.3	40.3	41.1
D データの活用	4	48.2	48.8	48.6

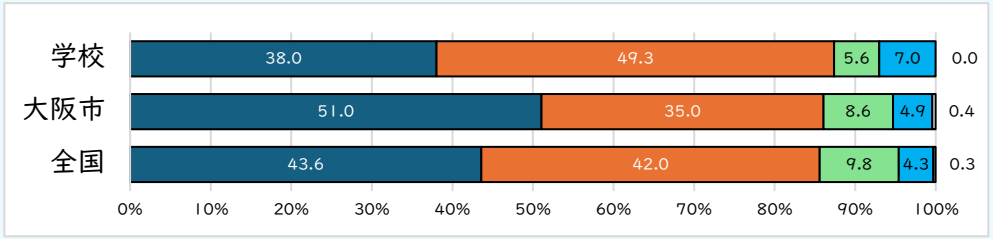




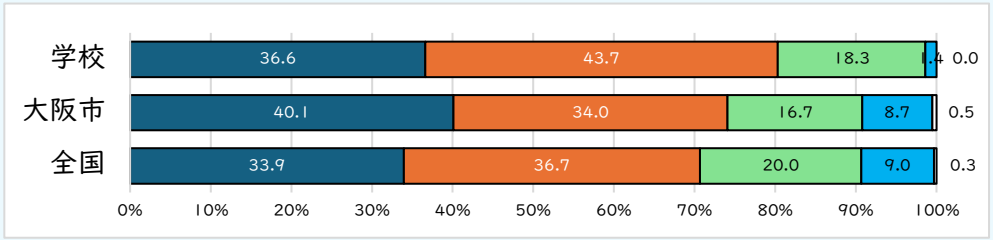
令和８年度　全国学力・学習状況調査　児童質問調査より

質問番号	質問事項
（８）	自分には、よいところがあると思いますか
（１３）	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
（１５）	学校に行くのは楽しいと思いますか
（４２）	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
（５１）	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

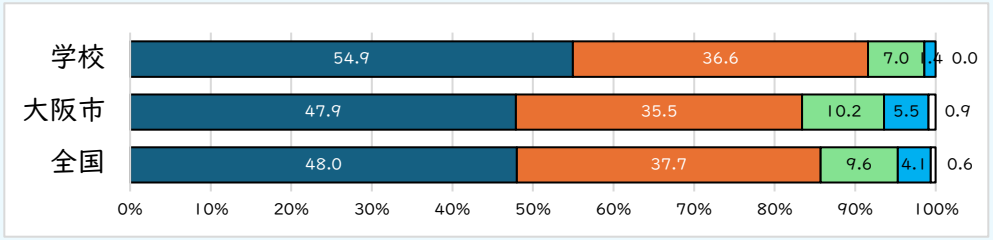
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。



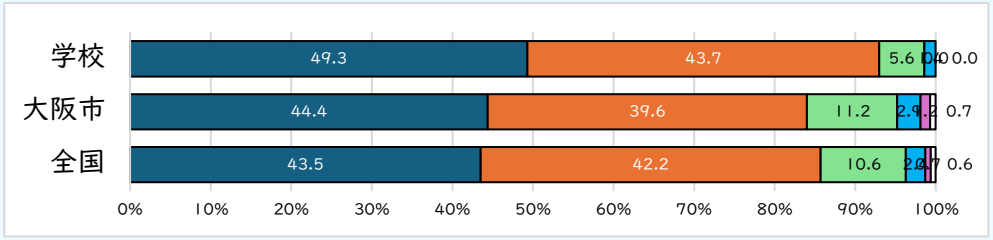
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



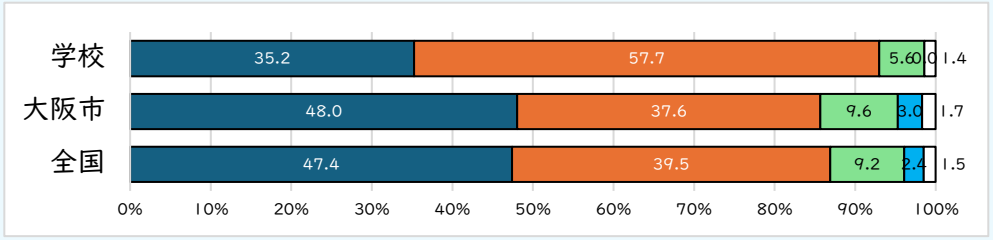
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない



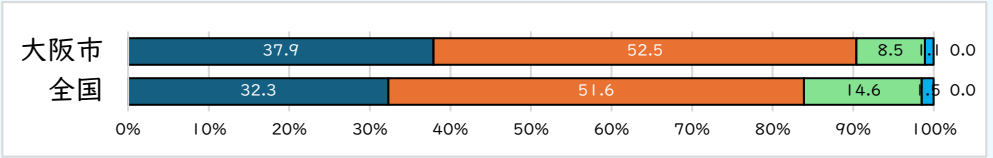
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

令和８年度全国学力・学習状況調査　学校質問調査より

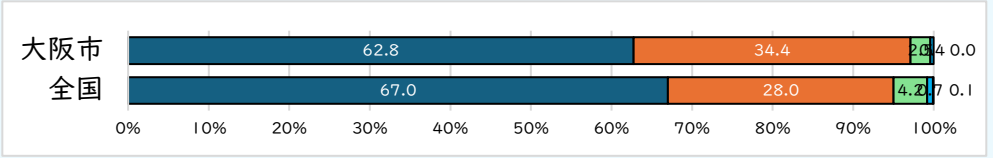
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

質問番号	質問事項
（８）	調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか
（１３）	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童が相談したい時に相談できる体制となっていますか
（１６）	ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか
（１９）	学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフを含む）の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか
（５８）	児童が学びを深めるための指導改善に向けた取組として、教員がコンピュータなどのICT機器の効果的な使い方を学ぶために必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか

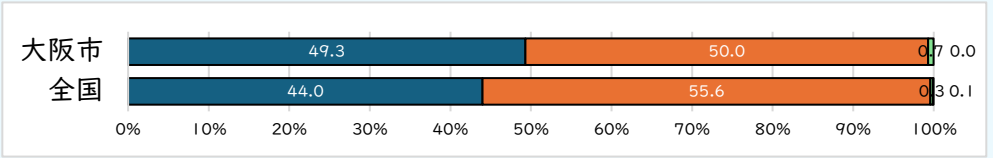
【学校の回答】　１　そう思う



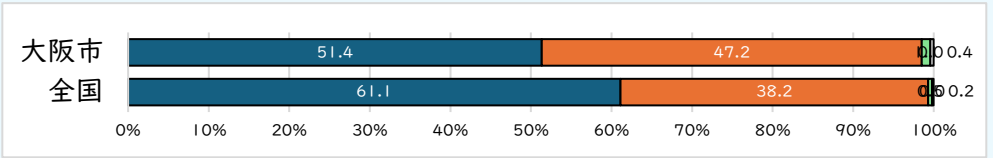
【学校の回答】　１　そう思う



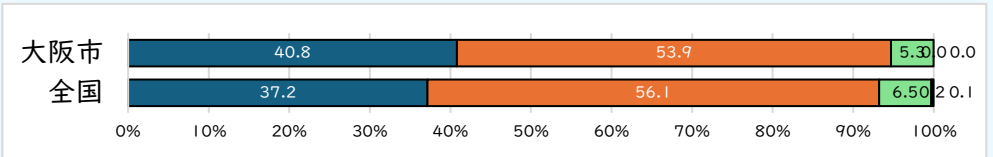
【学校の回答】　１　十分に取り入れている



【学校の回答】　１　そう思う



【学校の回答】　１　当てはまる



１　２　３　４　５　６　７　その他・無回答

１　そう思う
２　どちらかといえば、そう思う
３　どちらかといえば、そう思わない
４　そう思わない

１　そう思う
２　どちらかといえば、そう思う
３　どちらかといえば、そう思わない
４　そう思わない

１　十分に取り入れている
２　一部取り入れている
３　全く取り入れていない

１　そう思う
２　どちらかといえば、そう思う
３　どちらかといえば、そう思わない
４　そう思わない

１　当てはまる
２　どちらかといえば、当てはまる
３　どちらかといえば、当てはまらない
４　当てはまらない